

男女共同参画情報誌

ハートフルがみす

Aug.2021

Vol.36



輝くひとたち



エコ体験教室(陶芸)



ランドセルがつなぐ未来

特集 わたしたちにもできるSDGs

輝くひとたち…6

女性総合相談、おすすめの本…7

古着のリメイク作品を募集します!!…8



男女
共同
参画

「ハートフルがみす」は、市民の編集委員によって作成される、男女共同参画社会を目指すための情報誌です。

ランドセルがつなぐ未来

役目を終えたランドセルはどうされましたか？

ミニランドセルやペンケースにリメイクしたという人もいれば、押し入れにしまったままにしている人もいるのではないのでしょうか。

ランドセルの新たな活躍の場と色の移り変わりについて、ランドセル用素材である人工皮革（クラリーノ）の製造と、日本での役目を終えたランドセルの再利用に取り組んでいる株式会社クラレの今井さんにお話を伺いました。

アフガニスタンの子どもたちへ

クラレでは2004年からアフガニスタンの子どもたちにランドセルをプレゼントする活動を続けています。現地のNGO団体から学用品が不足しているという話がきっかけとなり、17年間で13万個以上のランドセルを届けました。

アフガニスタンでは女性の85%、男性の51%が読み書きできないそうです。教育を受けられない理由はさまざまですが、ランドセルをプレゼントすることで現地の子どもたちが学びの機会を得やすくなります。

地区によっては学校が整備されていないところもあり、そのような場所でランドセルは机代わりにもなっています。

株式会社クラレ
今井知也さん

「ランドセルは海を越えて」内堀タケシ写真・文（ポプラ社）▲
アフガニスタンの子どもたちにランドセルを届ける活動取材した写真絵本。
（市内小学校に寄贈されています）

◀こちらは波崎西小学校の子ども
たちから寄付されたもの

回収されたランドセルは横浜港に運ばれます。この春、神奈川市内では108個のランドセルが寄付されました。6年間使ったランドセルはまだ十分にきれいです。アフガニスタンの子どもたちに無事届くことを祈っています。

今回の寄付の募集は来年の3月、卒業式近くになります。活動に関する詳細は「ランドセルは海を越えて」のホームページをご覧ください。<https://umigoe-randoseru.com/>

ランドセルの受け渡し（波崎西小学校）



「持続可能」というのは、人間の活動が自然環境などに悪影響を与えずにその活動を維持できることで、「長期間に渡って実施し続けられる」という意味です。

SDGsに取り組むことは、自治体や企業だけでなく、私たち一人一人にもできることです。日常生活の中には、ひとりでも取り組めることはたくさんあります。

「水を出しっぱなしにしない」「食べ物を残さずに食べる」「マイバックを持つ」など、意識せずにもう始めていることがあるかもしれません。

私たちが、安心してこの地球で暮らし続けていくために、自分ができることから始めてみませんか？



ランドセルの多様化

ランドセルが多色化したのは2000年代前半。最初は24色くらいだったのが今では約200色あります。赤系統、青系統、パール色、ステッチや背当ての色などバラエティが広がりました。また、教科書がB5からA4サイズになったことでランドセルのサイズが大きくなりましたが、重さの負担を軽減するため軽量化も進みました。



ランドセルの色は何色？

最近のランドセルはカラフルになったと感じます。以前はランドセルといえば女の子は赤、男の子は黒がほとんどでした。ランドセルの色の移り変わりについてもお尋ねしました。

最近人気のカラー紹介

男子……7割が黒色
ステッチの色でオリジナル化
女子……ラベンダー ピンク
水色 茶色

キャメルは男女共に人気のある色です。
※人気の傾向は地域差もあります



好きな色を選べる幸せ

最近では性別に関係なくさまざまな色が人気だそうです。購入する祖父母や両親としては、6年間飽きない無難な色を選んでほしいのかもしれませんが、しかし好きな色を選べる今だからこそ、子どもの気持ちに寄り添い、6年間を共にするランドセル選びであってほしいと思います。

「変わった色はいじめの対象になるのでは？」と不安に思うことがあるかもしれませんが、世の中は個性を尊重する時代に変化しています。社会の多様化と共に男女で色分けされたイメージもなくなりつつあるようです。

この20年でランドセルの色も多様化してきたんだね。



SDGsって何だろう？

貧困、紛争、気候変動、感染症など、私たちは今、数多くの課題に直面しています。このままでは、安定して暮らし続けることができなくなると危惧されています。国連は2015年に貧困や飢餓、教育、男女の平等、働きがい、生産消費、生態系の保全など、2030年までに達成する具体的な17の目標を立てました。

それが「持続可能な開発目標SDGs(エスディー・ジーズ)」です。
※SDGs(Sustainable Development Goals という英語の頭文字からとった略称)



合言葉は「誰一人取り残さない」

エコ体験教室 第一リサイクルプラザ

身近なところでも、SDGsにつながる取り組みがあります。

第一リサイクルプラザでは、平成18年度からエコ体験教室を開催しています。

エコクッキング教室

地球にやさしい料理 ～買い物から片付けまで～

メニュー



キャベツの炊き込みご飯



ささみのベーコン巻きワイン蒸し



桜エビの春雨スープ



おからのスコーン

エコ調理のポイント!

- ①野菜は、ため水で洗って節水を心がけます。



- ②キャベツの外葉や芯、人参の皮も細かく刻んで料理に活用。生ごみを出さないようにするとともに皮の栄養も無駄なくとり入れます。



- ③ゆで汁も、ゆであがったものを引き上げて再利用します。

一つの鍋でゆでることで、水とエネルギーを節約します。



- ④ものによっては、電子レンジを有効活用します。

- ⑤細かく刻んだ芯や皮はよく炒めてスープにします。



- ⑥生ごみは新聞紙で作ったごみ箱へ。



仙土玲子先生

仙土先生からのワンポイントアドバイス

- 生野菜の買い置きは少なめに。冷凍もうまく使って食品ロスを減らす
- 鍋の水分を拭きとってから火にかける。時間より少し前に火を止めて余熱を利用し、エネルギーを削減
- 野菜の余りを捨てずに、皮や種も利用(野菜のダシ「ベジフロス」作りなど)
- 皮は干したり冷凍したりしてためておき、まとめて使っても良い

「一人一人がちょっとずつ、キッチンからできる思いやり」という先生の言葉が印象に残りました。
毎日の料理の中でも、私たちにできることは何かを考えていけたらと思います。

参加した方の声

- *水の無駄をなくす、食材を使い切ってごみをなるべく出さないレシピなど参考になった。
具体的にはキャベツを半分は主菜、半分は副菜にと、一玉を全て使い切るレシピだった。
- *みんなで料理をすると、一人で料理をするのと違って楽しい。
- *家では、新聞紙で油をふき取ってから洗っている。

パッチワーク教室

小さな布と布を縫い合わせて作るパッチワーク。

この日作製するのは3cm角のはぎれから作るピンクッションでした。好きな絵柄を選ぶところからイメージがふくらみます。

布が貴重だった時代の「物を大切にする精神」は、現在も私たちの目指す持続可能な社会に必要な考え方です。

物があふれている今だからこそ、大切にしたい手作りの豊かさ。布を再利用することで新しい作品に生まれ変わる楽しさを教えていただきました。



山本美津子先生

講師の山本先生は平成3年にご自宅でパッチワークの教室「布れんど」を開き、今年でちょうど30年だそうです。「コロナ禍で断捨離する人も多いですが、服を処分する前に使える箇所を切って、洗ってアイロンをかけておくと良いです。小さな布でもつなぎ合わせていけばベットカバーにもなりますよ。夢が広がりますね。」



参加した方の声

*初めてのパッチワーク。家にいることが多くなり手軽に始められるかなと参加しました。ミシンの出し入れもなく家事の合間にもできるのがいいですね。前回作った猫のぬいぐるみはサイズ違いでも作りました。楽しいです!!



完成!

陶芸教室

陶芸教室では、集められた廃ビン（びん）を材料に加え、陶器や陶板を制作しています。取材時は、全13回の序盤ということで、粘土をこねて成形する作業でした。和気あいあいとした雰囲気の中、皆さん一人一人、個性ある作品作りに取り組んでいました。

集められた廃ビンは専門の業者に委託され粉砕されます。砕かれて細くなったガラスは、主に道路の舗装などに使われるそうです。このガラスを陶器などの彩りに使用しています。

最近では、ビン（びん）を回収、洗浄し再利用するビンリユースシステムという取り組みを行なう企業も出てきています。ごみを減らす、環境・資源を守る。ひとりの小さな行動でも、集まれば大きな結果につながるのではないのでしょうか。廃ビン（びん）が作品にどのような彩りを見せるのか楽しみですね。

先生のスマックは
着物のリメイク



山本よし子先生

豆知識 ～3つのR ご存じですか？～

3R（スリーアール）は Reduce（リデュース・減らす）、Reuse（リユース・繰り返し使う）、Recycle（リサイクル・再生利用する）の総称です。今回の講座で見ると、エコクッキングは、使用する水や洗剤、食品ロスの「リデュース」、パッチワークは衣

類の「リユース」、陶芸は廃材のガラス片の「リサイクル」ですね。

各家庭でも、一人一人ができることがあるかもしれません。これからの私たちのために、できることから始めてみませんか？

輝くひとたち

神栖市文化協会会長 野口 さち子さん
神栖市着装連盟会長 根本 弥恵子さん

コロナ禍において自宅で過ごす時間が多い中、SNSなどには日本の文化がたくさん配信されています。今回は、着物の着付けや和裁などの指導をされている神栖市文化協会会長の野口さち子先生、神栖市着装連盟会長の根本弥恵子先生にお話を伺いました。

昭和40年代、旧神栖町、旧波崎町にそれぞれ着付けや茶道など、グループでの活動が始まりました。後に両町が合併し、神栖市文化協会となりました。現在は16連盟・5団体、その中に148団体が所属しています。着装連盟は現在6団体が所属、活動しています。



根本先生（左）、野口先生（右）

す。内容は着付けの勉強会、成人式式典での着付けお直しボランティア、芸術祭の参加（着付け体験（着物生地の小物づくり）、文化祭の開催など。

野口先生は「着付け」ではなく着ることを装う「着装」という言葉を用います。

「世界にはその国々の着装文化があります。自分らしく美しく装う文化は日本の着装と準ずるものがあり、また自己アピールにもなります。ぜひグローバルな観点で着装を楽しんでいただきたいです。」

最近では普段着として着物を楽しむ動画なども、し



ばしば見られます。崩してみたり、レースやベルトを添えてみたり。それも一つの文化です。

着物リサイクルの一環で布のはぎれを使った小物作りも活動の一つです。アイディアを出し合い、素敵な小物に生まれ変わります。芸術祭などで目にした方もいるのではないのでしょうか。

そして何より、活動のメインは着付けの指導です。

取材時は初夏ということもあり、「浴衣」の勉強会が開かれました。



野口先生は和裁士でもあります。先生が和裁の学校に在学時、半数は男性だったそうです。呉服店に勤めるほか、帯など力のいる作業をする職人さんはほとんどが男性だと聞きます。たくさんの方が支える日本の着物文化を、これからも大切に残していきたいですね。

着付けを勉強してみたい方、興味のある方はぜひご相談ください。

神栖市文化協会（事務局 神栖市文化センター）

☎02699-90-5511

人間関係

住みなれたまちで 笑顔で生きるために

家庭のこと

多様な性について

ちょっと相談 してみませんか

近隣問題

仕事のこと

最近、笑えていますか。ひとりで悩まないで、思いのすべてを吐き出してみませんか。ちょっとだけでも心を楽にしませんか。

女性相談員が寄り添い、話をお聞きます。

メールからも予約・相談ができます。

暴力(DV)

※男性からの相談もお受けします

女性総合相談

匿名相談OK!

◆面接相談(要予約)

毎週火曜日 13時～16時

第2・第4木曜日 13時～16時

場所は予約の際にお伝えします。

予約電話 ☎0299-90-1171(市民協働課)

※予約は年末年始を除く、平日8時30分～17時15分の間で受け付けます

◆メール予約・相談

予約: hotline-yoyaku@city.kamisu.ibaraki.jp

相談: hotline@city.kamisu.ibaraki.jp

◆電話相談(予約不要)

毎週火曜日 13時～16時

第2・4木曜日 13時～16時

相談専用電話 ☎0299-91-1236

フェミニストカウンセラーによるカウンセリングも受けられます。

ご予約の際にお問い合わせください。

もから大人まで楽しみながらSDGsを学べる一冊です。
世界の問題を知り、その問題を解決するために、一人でもできることはたくさんあるので、SDGsを考えるきっかけになるのでは。ぜひ読んでみてください。



『大人も知らない!? SDGsなぜなにクイズ図鑑』
笹谷 秀光 監修(宝島社)

「SDGs(持続可能な開発目標)」が、クイズ形式で楽しく学べる入門書。クイズを解きながらSDGsが理解でき、子どもから大人まで楽しめる一冊です。

明るくつつって、老いてからの子どもとの同居のコツなど、具体的なポイントも紹介されています。介護問題では、一人で抱え込まず「ヘルプ・ミー」を言いたいしょう。本書は、「老いの中にも福はある。という気持ちで生きていきましょう」と呼びかけています。今、悩んでいる方へのおすすめの一冊です。



『老いの福袋 あっばれ! ころばぬ先の知恵 88』
樋口 恵子著(中央公論新社)

八十八歳を迎えた著者が、高齢世代や高齢の親を持つ子ども世代に伝えたい88の知恵をまとめた本です。自身の体験も

おすすめの本

古着のリメイク作品を募集します!!

古くなったり、着ることが少なくなったりしても、思い出のあるものばかりで捨てるのはもったいない古着。そこで今回は、SDGsに関する取り組みの一環として「古着のリメイク作品」を募集します。古着で作った作品を写真に撮って応募してください。皆さんと新たな思い出を作っていく作品をお待ちしています。

作品例



母の形見の着物や帯。
思いをはせながら、バックや
ジャンパースカートなどに変身させました。
次の作品も楽しみながら
作りたいと思います。

小さくなった
子どもの服を再利用して
マスクを作りました

作品の応募者に、カミスコくんA5サイズノートをプレゼント!

【応募方法】任意の用紙に ①住所
②氏名 ③ハートフルかみすへの感想
や意見 ④作品へのコメントを記入し、
作品の写真を添えて、市民協働課(本庁2階)へ持参
その場でノート(1冊)と引き換えいたします。

【応募期限】令和3年9月15日(水)

応募作品の一切の権利は神栖市に帰属します。応募作品は、
「ハートフルかみす」で紹介するなど、広く活用します。

写真はデータでも可です。
右のQRコードよりアップロードしてください。



男女共同参画情報誌「ハートフルかみす」編集委員募集!

日常の疑問や気になることを、皆さんの知恵や情報、ノウハウを生かして発信してみませんか?

「ハートフルかみす」は現在市民の編集委員4人で作成しています。意欲と好奇心のあるスタッフ(有償ボランティア)を追加募集します。

■募集人数: 1名

■仕事内容: 企画・取材・原稿作成など

■勤務日: 1号発行ごとに7~8回程度、1日約4時間
(勤務開始は10月を予定)

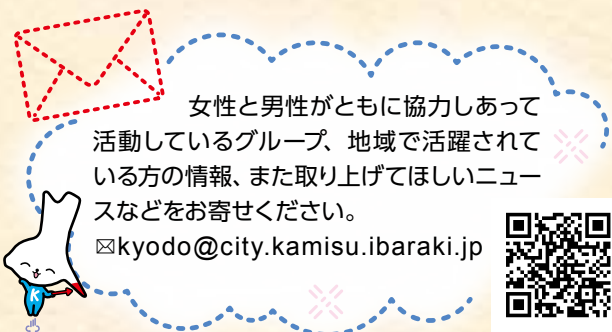
■発行回数: 年2回(8月、3月予定)

■応募資格

- ①男女共同参画社会の推進に関心と理解のある人
- ②市内在住の20歳以上の人
- ③平日の情報誌編集会議などに出席できる人
- ④普通自動車運転免許を有する人

■応募締切: 令和3年9月15日(水)

■応募方法: 市民協働課へ電話申し込み ☎0299-90-1171



編集委員

- 安藤委員
- 林委員
- 柴田委員
- 水城委員



茨城県内の魅力を伝える「電子書籍」ポータルサイト「イバラキイーブックス」

ibaraki ebooks

スマートフォンやタブレットで「ハートフルかみす」が閲覧できるようになりました。

